



研究

セイロン島の歴史産業交通の概況

H T 生

大東亞戰爭と印度

今や大東亞戰爭勃發以來既に一年有半を経過するに至つたが、現下の戦情は南太平洋方面に於ける米濠必死の總反攻によつて、日を逐つて凄愴苛烈の相貌を日増に呈して居る。併乍ら大東亞戰爭勃發以來皇軍の嚮ふ所、敵なく大東亞に於ける敵英米側の據點たる要地要衝は相次いで覆滅せられ、他面日滿華泰の結束亦愈々鞏固となり、帝國の道義

外交方針に依つてビルマ亦獨立に着々進捗して相共に一路大東亞共榮圈の確立に力強き歩みを進めつゝあるのである。今や英米積年の罪惡は一切清算されんとして、纏て大東亞の輝かしき黎明が訪づれて來るのである、更ればこそ印度獨立完成も此の好機會を脱しては將來遠久に再び來らないのである。嘗て獨逸に亡命中であつたインド獨立運動の指導者チャンドラ・ボース氏は這般突如我國に現はれて各方面を歴訪して日本の強力なる支援の下に東亞の一角か

ら祖國印度の同胞に向つて「印度人の印度を建設せよ」と叫び活潑なる獨立運動を展開することとなつて彼は直ちにその實行に着手して居るが、印度の志士は大東亞戰爭勃發と共に蹶起して精神的には既に印度は獨立せりと云つて可なりである。茲に英國が搾取印度に大なる關係を持ち亦現在英國の直轄植民地であるセイロン島の歴史産業交通等の諸般に互つて其の概要を觀察することも敢へて徒爾ではなからうと思ふのである。

地理的に見るセイロン島

偕て茲に先づセイロン島を緯度的に見ると同島は北緯五度五五分から九度五〇分、東緯七九度四二分と同八一度五三分の間に在つて、東西最長約一四〇哩、南北最長約二七〇哩であり、其の周圍は約七六〇哩にして面積は二萬六千三百三十平方哩であるから、我國の九州と四國とを合した程である、これを地理的に觀察すると、印度大陸の東南に位する所謂印度洋上にあつて、亞細亞の中央にあるが故に

海上交通の要衝に當つてゐる。而して印度大陸との最短距離は印度半島部の東南ダナツニューウヂーと同島北西のタライマンチの間は僅かに二十二哩であつて、この間は連絡船にて印度大陸の鐵道と同島の鐵道とが結び付いて居る。地質は一般に非常に硬く北部及北半部は東岸から西岸に至るまで概ね平原であるが、處々被覆の岩山の支脈が點在してゐる、海岸線は斷崖は全然なくして平野に續いてゐる有様である、而して海岸線の屈曲も西北部には多くして、東北部には大體單調である、この海岸線から北半部一體に互つては森林地帯をなして居るが南半部は高峰の山脈が中央にあつて南に西から北々東にのびてゐるので東西海岸から丘陵性の山地が續いてゐる、又島内には三千呎以上の高峰は百五十を數へられるが、其の内でも彼のピドルタラガラ峰の如きは八千二百九十二呎と稱せらる、最高峰であるが七千呎以上の高峰だけでもキリガルボツタ峰、コラパタナヘラ峰、トタボラ峰、クダハガラ峰、ヂ・ブルーフ峰、アダムス・ピータ峰の六峰を數へらるのである。河川は地

形の影響を受けて總て中央山系にその源を發して放射狀に流れて海洋に注ぐのであるが、東北方面と西北方面に流るものは比較的長く、西岸に向つて流るゝ河川は長流ではないがその數は多いのである、而して河川の主なるものはホートン・ブレンに源を發してキャンデイ市を貫流してツリンコマリにて海に入る流域二百六哩のマハウエリ河及びダンブラ附近から發してマンナーの南にて海に注ぐ約百七哩のマルワツ・オーヤ河並にマルワツオーヤ河の南を流れて西海岸に入る九十七哩のカラ・オーヤ河其他シギリヤ附近から源を發してナリシコマリの北方にて海に入る九十四哩のヤン・オーヤ河、アタムス・ビークから發してコンボの北から海に注ぐ九十哩のケラニ河位であるがこれ等の諸河川は山岳地帯では奔流をなし、北流はジャグル地帯を縫ひ、又西流するのは平野を潤して農耕を助けてゐるが凡て下流の水運は河底が深くないので、船舶の航行は出來ず只だ舟艇の便があるのみである、氣候については一體セイロン島はその位置が示す如く熱帯圏内にあるがために熱

帯特有の氣候であることは勿論であつて、従つて一般的には高温と濕潤とを特徴とする、印度大陸に毎年定期的に來襲するあのモンスーンは有名であるが、セイロン島にもこのモンスーンが來襲する、これは西南季節風と云はれて大體四月から十一月の中旬の間に來襲するが、この原因は印度の西北部シンド・ベルチスタン方面にある低氣壓に對して暑熱のために南印度に高壓部が發生して、これに東南貿易風が赤道を通過して北半球に入り、北印度全體に互る西南風となつて、その一部がセイロン全島を通つて彼のベルガル灣に抜けるのである、この西南風が吹く間が即ちモンスーンと呼ばれるのである、同島の降雨はこの西南風が中央山系の障壁に當つて雨となるのであつて、従つて西南部平野と丘陵地帯には多量に降雨がある、これに反して北部と山系の裏地帯たる東部はこの期間乾燥期であつて雨を見ない有様である。

セイロン島の歴史と共團の擡取行政

セイロン島の歴史については上古時代は勿論何等の記録はなく、只だ單に神話時代を想像するのみであるが、紀元前六世紀頃に於いて北方印度のヴィジャヤ王と云ふ一酋長がアリアン系の一群を率ゐて同島に侵入したので始まるが、其後漸次原住民を征服して紀元前五百四十三年にシンハル王朝を建て、同島の酋長の娘と結婚して農業を奨勵して全島を統治するに至つたと云はれてゐる、シンハル王朝は佛教の盛衰と運命を共にして、その間他民族來襲のために數度王位を奪はれたこともあつたが、同朝の中世にはブラクラマ・ベバと云ふ不出世の英傑が出で、對外的には南方印度に侵入して之を撃破し、更にシヤム現在の泰國にも軍事的勢力を滲透せしめたのであつた、又對内的には善良の政治を行ひ産業振興、國民の富力増進、文化の發達に大いに意を用ひて所謂セイロン島をして富み榮えたる王國としたのである、其後支那人の來襲もあつたが、同島王國は南方印度には絶へず鬭争を續けて居たが、彼のマラバール族の如きは近隣征服を了つてセイロン島にも來攻して、同島

の北部東部はこの種族のために占領されて、シンハル王朝の首都は漸次南下して、千四百年にはコロンボの南部コツタに遷都したこともあつたが、かやうにセイロン島は王朝と共に興亡の歴史を繰り返して、千八百十五年英國の侵入によつて、キャンデイ王の退位までシンハル王朝はどろにか永く續くことを得たのである、千二百九十一年後のマルコポーロに依つて同島は始めてヨーロッパ人の足跡を印したのであるが、其後シンハル王朝は衰微して、七土人國にも別れて居た際に葡萄牙人ペドロ・ロベス・ソアレスが艦隊を率ゐてセイロン島に來つて千五百十七年當時のコツタ王からコロンボに貿易港及び要塞建設の許可を得て、所謂葡萄牙の植民地時代であつたが、ポルトガルは千六百二年に於て和蘭提督スピルベルグの來島に依つて、同提督はキャンデー王と同盟條約を締結して以來、同島は漸次和蘭の植民地に代りつゝあつたのであつた、其後和蘭は同島を植民地化すること約百四十年に及んだが、和蘭本國の衰微は英國の勃興となつてセイロンの植民地も亦千七百九十

六年に遂に英國に奪取せらるゝに至つたのである、而して和蘭の同島に於ける勢力を完全に驅逐した英國は千七百九十八年にフレデリック・ノースなる者を初代のセイロン島總督に任命して英領直轄植民地としたのである、シンハル王朝は當時尚ほ丘陵地方に餘命を保つて居たが、内訌反亂は絶へずして千八百三年には遂にキャンデー王の弟をして王を刺殺せしめ、其後その弟も亦謀殺さるゝに及んで茲に二千年の歴史を有するシンハル王朝も完全に斷絶へたのであつた。故に千八百十五年以來はセイロン島も完全に英國の統治下になつたのであるが、爾來約百五十年の現在まで英國は其の印度政策と不即不離の關係に立ちつゝ老獪隱險なる擗取政策を絶へず同島にも繼續しつゝあるのであつて、元來英國の植民地統治の老獪欺瞞さはこれを政治的に英國個人主義思想の反映に依つて、自主統治主義によつて千八百三十三年には同島にも憲法を制定したが、これは單なる形式的であつて全く何等原住民の權利は認められず、従つて利益は擁護せられず、其後屢々改變を見て千九

百三十一年制定の所謂現行法になつて本國勅令による第一級直轄植民地として植民大臣の行政下にセイロン島は置かれて居るが、行政權は總督の握るところであつて、代議院制度にはなつて居るも全く有名無實として責任政治は全然行はれず、立法行政の最高決定權は總督にある状態である、然して印度事務大臣との關係は全く無關係の下に置かれて居る。

セイロンの住民と其の種類

而してセイロン島の居住民はシンハン族、タミール族、モール族、マレー族、バーガー人、ウエツダ人及び歐洲其他の人となつて居るが、その内に於いてシンハル族は島内居住民の大部分を占めて居る、彼等はシンハ即ち獅子の意味にしてこのセイロン島を獅子の國とも云つて、従つて住民は獅子の子との迷信を持つてゐる、而して彼等の多くは主として中部以南に住み、現在では約三百五十萬と稱せられてゐる、次に住民中にも多數を占めて居るのはタミール

而してセイロン島の居住民はシンハン族、タミール族、モール族、マレー族、バーガー人、ウエツダ人及び歐洲其他の人となつて居るが、その内に於いてシンハル族は島内居住民の大部分を占めて居る、彼等はシンハ即ち獅子の意味にしてこのセイロン島を獅子の國とも云つて、従つて住民は獅子の子との迷信を持つてゐる、而して彼等の多くは主として中部以南に住み、現在では約三百五十萬と稱せられてゐる、次に住民中にも多數を占めて居るのはタミール

族であつて其の數は百七十萬と云はれて居る、これ等は主として同島の北部並に東部に多く中央山系に居住するものは勞働に従事して居る、宗教的に見ると前のシンハル族は殆んど全部は佛教徒なるに比らべて、タミール族は一部に於いて舊教を信するものもあるも、主としてヒンヅー教である、次に三十五萬に及ぶモール族と云ふのはアラブ系統又は印度人系統の回教徒であつて、彼等はモール族特有の社會機構を以て他の民族とはあまり融合せずして言語はタミール族と同様即ちタミール語を用語として居る、又マレー半島から移住した兵士の子孫にマレーと云ふのが住んで居る、彼等の數は現在約一萬五千人と稱せらるゝが、宗教は全部回教であつて、シルハル語又はタミール語を以てし職業は主として巡查看守給仕家僕等となつてゐる、更にセイロン島の原住民にして現在では東南部の所謂ジャグル内に逼塞して決して、他民族と交際せない原始的な生活を營んで居る約五千人ばかりのウエツダ人と云ふのがある、彼等は元々ドラビタ種族又は印度マリヤン種族に屬するもので

あると人種學者が云ふ者もあるが、言語はウエツダ特有の言葉を使つて種族壞滅の一途を辿つて居る、其他歐洲人バーカー人等が住んでゐるが、歐洲人は千五百年以來ポルトガル人に始まり、最初は西部及南部に居住してゐたが、千六百五十六年蘭人の進出に依つて追はれ、次いで蘭人もまた千七百九十六年英人の進攻に依つて脆くも敗れて以後英人の支配となつて、現在では英人の住民は最も多く上級官吏農業商業方面に従事して同島各方面に實權を握つてゐる、其他各國民は歐洲人を加へて約二萬八千に及んでゐるが、主として商業に従事して我が邦人も戰前五十四名在住して居つた有様である、バーカー人は葡人、蘭人、英人の父を持ち、セイロン土着民族を母に持つ所謂混血兒であつて其の數現在約三萬三千人と稱せられて居るが、殆んど都會地に居住して、比較的文化的にせしめ言葉は英語又は葡萄牙語和蘭語を用ひて居り、主として官吏、事務員、技工、職工等になつてゐる、然しこれ等を合してセイロン島の總人口は千九百三十六年の推定人口に依る、約五百六十

八萬となつてゐるが、これを千九百三十一年度に比較するに五ヶ年の自然増加は約三十七萬であり、従て一ヶ年の自然増加は約六萬餘となつて居る。

セイロン島の農産物と經營

今度はセイロン島の産業狀況について少しく觀察すると同島も亦他の熱帶圏内の諸島嶼と同様に、その産業の基本は原始産業の區域を脱せないのである、而して原始産業も熱帶農業を以て基調として牧畜業、林業、漁業がこれに加はり天然資源の方は大東亞共榮圏内の熱帶諸島が豊富なるに拘らず、セイロン島は現在までの調査に依ればこれに乏しく、唯だ良質の黒鉛を少量埋藏するのみである、本島が農業本位であることは人為的要素と自然的要素が農業發達に多大なる影響をして居ることは、農耕地がセイロンの全面積の約五分の二を占めて居るのでも推察し居るところであるが、茲に最近に於ける本島主要農産物の栽培面積を統計に依つて見ると。

		セイロン島に於ける主要農産物の栽培面積	
椰	子	一一〇萬	一〇〇〇エーカー
米		九四萬	一〇〇〇エーカー
ゴ	ム	六〇萬	一五二エーカー
茶		五五萬	七四五エーカー
チ	エナ農作物	七萬	七〇〇エーカー
檳	榔	六萬	九〇〇エーカー
棕	櫚	五萬	一〇〇〇エーカー
コ	ココア	三萬	四〇〇〇エーカー
シ	トロネフ	三萬	三〇〇〇エーカー
野	菜	三萬	三〇〇〇エーカー
穀	類	二萬	八〇〇〇エーカー
肉	桂	二萬	六〇〇〇エーカー
煙	草	一萬	四〇〇〇エーカー
小	荳	六〇〇〇	エーカー
棉	花	二〇〇〇	エーカー
其	他	一〇〇〇	エーカー

である、殊に茶は所謂セイロン茶即ちリプトン紅茶の名稱を以て現在の如き盛況を見るに至つたが、併乍らセイロン

島の茶栽培は我國の如く古き歴史を有するものではなく、近々百年に滿たざるものである、而して本島の茶の栽培に従事する者は殆んど全部は英國人に依つて獨占せられて居る有様である、然して本島生産の紅茶輸出割當量はこれまで統制機關として國際茶委員會の決定に依つて左右せられて、最高輸出量の八割七分五厘と定められて居たが、統計に依ると千九百三十七年の輸出量は二億千三百十三萬封度であつて、それ以外は島内消費として輸出量の約一割に相當する量が生産されてゐたのである、このセイロン茶は世界大戰勃發以前までは殆んど世界の各大陸及び英國其の屬領、諸外國に輸出されて居たが、本邦への輸出量は。

セイロンから日本への輸出量

一九三五年

一九三六年

一九三七年

四九・七六四六封度 六六一、一一三封度 四九〇、三六七封度となつて居る。セイロン島は斯くの如く紅茶の世界有数の産出國に拘らず、茶の商業上の特權は老獪なる英國の奪ふところとなつて倫敦市場に獨占されて居る状態にある、米

はセイロン島では西部及び南部地方の低地に多く生産して北部地方はこれに次ぐも、東部地方はこれ等の地方に比して著しくその生産は劣つて居る、而してセイロンの住民は本島の西南地方の産出米のみを以ては到底島人の食料を滿たすことが出来ない状態にあつて、輸入米に依存してゐたが、大東亞戰爭の勃發は印度及びセイロンに對する唯一の米供給地であつたビルマも東亞共榮圏の一翼として立つに及んで其の輸入は不可能となり、從て住民の英國に對する怨嗟の聲が置々たる模様である、又ゴムはセイロン島では茶よりもその栽培は新しいのであるが、現在に於いては約六十萬エーカーに達して第二のエステート農業の對象物となるに至つたのである、この栽培に従事して居る者は茶と同様主として英人でありこれに土着人經營もあるが、英人經營の三分の二に對して土着人經營は三分の一に過ぎざる状態にある、而して本島のゴム産出量はマレー東印度諸島に次いで世界の第三位を占めて居る、即ち千九百三十七年度の輸出量は一億五千六百九萬餘封度總額七千七百餘萬圓

に達してゐる、同島から我國に輸出される生ゴム量は千九百三十四年には百八十二噸、同三十五年には百二噸にて三十六、七年には皆無である、更に椰子は土着民の生活上必要のものであつてセイロンの低地方には到る處に栽培してゐる、これは比律賓、印度に比較しては其の產出量は少ないが、同島の農産物としては最大の栽培面積を有して土人消費餘剰量約二十萬噸を輸出して居る、其他椰子製品も加奈陀、英本國及び印度等を主要輸出國として居る、コ、アも亦茶ゴムと共にセイロン島の新興農業の一つであつて栽培面積は約三萬四千エーカー年産三千餘噸に達して其の生産量總ては輸出して居る状態である、其他輸出には肉桂、小荳蔻、シトロネラ草等の特産物がある。

セイロンの林業と鑛業

セイロン島の林業は他の熱帯地方に略ぼ同様、即ちターク材、ジャナク材は多少産出を見るも品質は良可でなく、亦數量も少ないためにこれ迄ビルマ等から年々相當量が輸

入されて居る有様であり、又牧畜業は畜産數は千九百三十一年の統計では牛類約百五萬頭餘、水牛五十二萬頭餘、山羊十九萬頭餘、綿羊六萬頭餘、其他豚の四萬頭餘、馬の千頭餘となつてゐるが現在ではこれよりは約二割程度増加して居るやうである、而してこれ等は主として農業又は挽用として農家の副業的に飼育せらるゝが故に牧畜業として大規模のものは少ないのである、水産業に至つては全體セイロン島の海面は東北にペンガル灣、西北にアラビヤ海を控へて居り、南は印度洋に面してゐるから魚群は多種多様である、このやうな豊富なる魚場を近海から遠海に持ちながら同島の漁業は未だ發達して居ない状態にある、これはセイロン島に現在従事する漁業者はシンハル族並にタミール族であつて、古來から階級の低き者が之に従事する慣習なるが故に原始的な方法による漁獲法であるがためである、故に本島の漁獲高を以て到底自給自足が出来ないので多量の魚類、罐詰、干魚等を外國から輸入してゐる有様である、只だ眞珠貝養殖業はセイロンは世界的に有名である、

が、千九百二十五年以後は收穫もない状態である、鹽業は同島の北部と西部に鹽田あつて販賣は政府の專賣となつてゐる、鑛業方面に付ては、同島は他の熱帶諸島に比して最も地下資源には恵まれないのであつて、黒鉛だけは彼の曩に英國が不法占領したるマダガス島に亞ぐ世界の産地として知られて居る、恰もその品質は相當に良質のものが精選されてゐるが、その產出量の多いものは粉及びカーボン塊である、而してこれ等鑛山の經營はシンハル族が大部分を占めて居るが千九百三十四年の調査に依ると八十八ヶ所の鑛山採掘があつて従業員は二千四百人となつてゐる、この

黒鉛をセイロンでは主として日本、米國、英本國、獨逸等に戦前まで輸出してゐたが、その内我國には良質品であるが粒子と粉物である、寶石も亦同島では産地として有名であるが、其の種類はルビー、サファイヤ、黃玉石、柘榴石、尖晶石、猫眼石等である大部分は戦前まで歐洲方面に輸出したのであつたが、全體セイロン島が印度洋に於ける交通の中心地たるの關係上、觀光客に依つて持歸られるも

のは多く所謂貿易外の收入となり、其の數は年々相違があるも戦前大體二百萬留比程度であつたのである、大體セイロンの鑛業は即ち黒鉛と寶石位のものであるが、其他に雲母と陶器用粘土、粘板岩が多少產出するのである。

セイロンの工業と金融の概要

次にセイロンの工業状態の概要を見ると、同島はこの方面には未だ發達の區域には達して居ないのである、然して其の原因は主として英國の植民政策に依るものであるが、元來英國の植民政策は既に讀者諸君も熟知せられる如く殖産業立地政策を以て臨まず、殖民地をして永く原料生産國として英國經濟の下層部を擔當せしめ以てこれ等の原料を使用して英國自身の諸工業の發達に資して製品は再び逆に各殖民地に輸出して、獨占的商品市場たらしめるのを主眼として居る有様である、夫れ故に英國自體は殖民地原住民の犠牲に於いて、英國産業の股賑を來たして産業利潤の追求に汲々たるの有様である、かやうなる英國の植民政策

はセイロンに近代的工業として見るべき何物も起らない原因であつた、加ふに同島は工業發達に絶對必要條件たる動力問題があつて、即ち石炭の産出も皆無たる上に漸く火力發電所を維持する現状であるから、從て電力生産費は非常に高く付くからである、最近河水を利用して水力發電所は島内に二三個所建設されて居るが、尙ほ微々たるものである、亦他の原因は英國資本の本島工業方面に投資は前記したやうに英國殖民政策にも背馳する結果と工業諸原料の缺如とに依つて英人は着手せず、亦原住民の資本家は大部分土地の所有者たるを以て金融資本又は産業資本化せないのである、故に現在のセイロンの工業狀況は製茶工業の五百五十工場を筆頭として、生ゴム加工業の四百三十八工場、椰子油製油業の約三百八十二工場とシトロネラ蒸溜工場の二百五十二工場、肉桂蒸溜業の十九工場、其他椰子纖維工業の二百九十三工場、外二三種類で即ち特殊農産物加工工業ばかりである、只だ共同資本に依つてコロポ港に造船業があるが商船を修理する程度であるのと機械工業とし

て電氣器具製造修繕工場の約五十工場と自動車修理工場の六十二工場位にて平和産業方面では紡績工場の十三工場とマツチ製造業の十四工場、石鹼製造業の六工場と食料關係工場としてビール會社の一つと清涼飲料水及び製氷工場が四十五工場とパン並に菓子業が二百二十七の製造工場と烟草工場の二工場と更に土器製造工場の約千八百工場、タイル、煉瓦製造工場の三百七十工場、其他製材、塗物、葎製造工場、肥料、精米、製鹽等の各製造工場もあるが全部其の規模は小にして全くセイロンの工業は幼稚なものである、而してセイロン島の經濟の基礎をなす金融關係を見ると紙幣發行は總督直轄の財政長官がこれを掌握して、印度のルービーにリンクされて居る有様である、この方法はセイロン政府所有の銀を印度に送つて印度政府銀行に保管されて印度セイロン間は等價にリンクして印度はこれを總括して英貨一志六片にリンクして居る、又貨幣單位は印度の單位である留比と違つて十進法で仙にて呼ばれてゐるのである、而して本島の英國系銀行は政府公金の收納、預金

及び商業手形割引等を業務として居るが、農業資本としての貸付は英人經營のエステート以外はなさず、又不動産經營の銀行があるのみである、英國は如何にして商業利潤の搾取に汲々たるかは土着人の生産物は安價に買取、彼等の消費する物品は高價に賣買せしめて土着人の生活水準を向上せしめず、小賣部門でも土着人の生活に直接影響する食料品等の販賣は市營、公設市場を設置して茲にも英國殖民政策の土着人壓迫の好妙なる遠謀が含まれてゐるのである。

セイロンの道路と鐵道及び海運

以上は大體セイロン島の産業の概要であるが、併せてこのセイロン島の開發其他に至大の關係を持つ交通問題を見ると、海運では即ちコロンボ港と西海岸南部にあるゴール港と北部の要衝で對岸印度諸地との交通に當るチャツツ港がある亦南部半島部の凸端にタライマンナ港がある。この港

は本島の鐵道と印度鐵道の連聯港であつて、即ちこの四港がセイロンの主たる開港である、而して寄港する世界各國の船舶も戰前までは多數であつたが、其内英國船に依る航海網が約半分以上を占めて居たのである、その出入船舶數又は噸數も遙かに世界各國を凌いで居るがこれを見ても英國は如何に印度と本島を英國の寶庫として重要視して居るかが窺はれるのである。今度は陸運方面を見ると、先づ鐵道は千八百五十年にコロンボ市とキャンデイ市間を繋ぐ敷設を計畫したが、變更に遅延を重ねて漸く同六十七年に開通したのであるがこれがセイロンの最初の鐵道である次いで千八百七十七年に縱貫幹線の一部としてコロンボ市から南部海岸線に沿つて起工されて千八百八十五年に横斷幹線鐵道完成と同時に、現在の終點であるマタラ迄出來たのである、其後徐々に鐵道建設は進捗して現在のセイロンに於ける全線は廣軌道は八百三十六哩と狹軌道は約百十七哩である。即ちコロンボ・ボルガウエラ・バヂユラを繋ぐ延長百九十哩の中央横斷幹線と、ボルウエラ・マホ・カンケサ

ンチュライを連なる二百五十四哩の中央縦斷幹線と、印度との連絡たる即ちマダワチヤ・クライマンナ港間の五十六哩と更にマホ・カロヤから二分して這般我が荒鷲が空襲したるツリンコマリとバチカロアに至る所謂東岸横斷線の百五十三哩と西北部海岸を走るコロンボ・ネコンボ・ブツトラムを結ぶ八十四哩の西北海岸線があり、更に西南部海岸線としてコロンボ・ゴール・マタラ間九十九哩がある、而してこれ等の鐵道は總て五呎六吋の廣軌であるが、コロンボ・ラトナブラ・オパナヤカ間の八十四哩ケランヤ溪谷線とキャンデ・マタレの十一哩とチワノ・ヌワラ・エリヤ・ラガラ間の二十二哩の所謂ユツダブツセラワ線は狹軌である、而して本島鐵道はコロンボ・キャンデ間のみは復線であつて他は全部單線である、その營業狀態は過去十年間殆んど赤字であるが赤字財源は本島の豫算内に求めつゝある有様である、今度は道路問題に移るが、道路の總哩數は約一萬六千五百哩であつて、尙ほ其の外に村道として小路は八千二百哩程ある、而して約七千哩は普通自動車の交通は

出来るのであつて更に其の内五千哩程は貨物自動車がクル其他の資材で鋪装してある道路上を走ることが出来るのである、あとの九千哩程は一般の砂利道であるが近代の鋪裝道路はコロンボ市を中心として扇のやうに全島内には鐵道道路に沿ひ又は丘陵地帯を近距離に抜けて鄙邑から鄙邑に四通八達して居る、然してこれ等の道路網も西南部と中央部にては多いが東部及び北部は少ない有様である、特に東南部地方は鐵道交通の發達は最も遅れてゐる、而して重要道路は丘陵地帯を除く外は出来る限り直線になつてゐるが又其の幅員も島内循環道路は割合に廣く丘陵地帯の道路の幅員は廣くないが、登降の兩車共に自由に通過することが可能である、曲る箇所には左右傾斜が出來て居て通行を容易ならしむると共に哩標及び十字路には道路指向標も完備して居る、全體セイロン島は橋梁が多いので、永年の使用によつて沈下其他破損もあり、往々モンスーンの時には各河川の増水は堤防の決潰、橋梁の流出を屢々生ぜしめるので交通杜絶が時々あるために場所に依つては自動車運

搬用の渡船を置いてあるところもある。セイロンの道路網は以上のやうな状態にあるから、同島の自動車總數も三萬五百臺餘に達して總人口五百六十七萬に對して百九十人に一臺の割合で所有して居る勘定になるが、生活程度の低い殖民地であることを考へると多數であることを思はしむるのである、而して主要道路上には電話機を設置して道路損傷個所の通報等の設備もあつて、兎も角英國の殖民政策は老獪なる搾取を以て其の目標として居るが、道路には何れの殖民地とも同様セイロンにも却々力を入れて居るやうに見られるのである、又道路上に於ける自動車以外の交通機關としては、田舎では二輪牛車と貨物運搬用として一頭又は二頭牛を以て牽く近距離或ひは急を要せない貨物運搬用の二輪輓車があつて至極便利に使用してゐる、又都會に於いても自動車の發達せる現在では、人力車の利用も多い有様である。セイロンの道路状態は大體かやうであるが、これが行政機關は政府交通省の一局として公共事業局なるものがあつてこれに道路も橋梁も總轄されて其の下に各地方

道路委員會があつて該委員會では各地區道路委員會及び市及び町の道路課及び村會等あつてこれを掌り、又別に道路に關する團體に農務省の土木局と農園經營者が一團體を組織してこれ等に亦道路及び橋梁の建設と維持に當つてゐるのである、大體これにて本稿を終ることにするが、數千年の歴史と光輝ある文化の傳統を持つ印度も現下多年に互る暴虐壓制下の英國から離脱して大東亞共榮圈建設に参加せんとして居るが日本も亦印度四億の民族を救ふべき絶大の援助を惜むものではなく、これに向つても着々敢行されつゝあるのであるから、多年英國の搾取寶庫の一部たるセイロン島の近き將來も亦大なる變化を來たすべきは必然にして其の推移に最大の關心を持つのである。

